

冊 図書館だより



10月27日から11月3日にかけて、「秋の読書週間」が始まります。図書委員会では、例年この時期に「全校生の皆さんにもっともっと本に親しんでもらいたい」という思いから、さまざまな形で積極的に本の紹介をしてきました。そこで、今号から数回に分けて、先生方の推薦図書を紹介いたします。今年もコースごとに掲載していきます。最初はST・Sコースの先生方からの推薦図書です。あなたも知ってる本がありますか？

STコース主任 杉山 和則

『モーターサイクル ダイアリーズ』

エルネスト・チェ・ゲバラ著 角川書店

自分の目で見て、人生を考える。そのために「旅」をしよう。本書は、革命家チェ・ゲバラが、若き日に親友とともに、中古のモーターサイクルで南米大陸を縦断した旅の記録である。当時医学を志していた著者は、後の演説

(1980年8月：本書掲載)で「医師の任務について——私はすべてを旅で学んだ」と述べた。同題映画&メイキングもあり。



3-1担任 中村 達

『スマホが学力を破壊する』

川島隆太著 集英社

著者はかつて携帯ゲームの『脳トレ』で一世を風靡した川島隆太である。そのような著者がこの本を執筆し、その最後に「ビル・ゲイツもスティーブ・ジョブズも、自分の子供にはスマホをはじめとするデジタル機器を持たせず、使用も制限した…」とまで書いている。

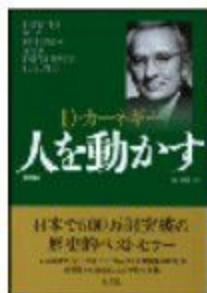
スマホが浸透した現代にスマホについて考えさせる一冊。



3-2担任 石川 圭

『人を動かす』 D・カーネギー著 創元社

なんとあの塙先生からプレゼントされた本です。あらゆる自己啓発本の原点とも言うべき本ですが、リーダーシップについて学べるだけではありません。もっと根本的な、人が生きていく上で身につけるべき人間関係の原則を学べます。塙先生ファンも必読です！



2-1担任 五十井 俊

『新世界より』 貴志祐介著 講談社

これは遠い未来、全ての人類が超能力に目覚め神となった世界。そこは一切の争いがなく誰もが平和に暮らす理想郷である。しかしそれは嘘と死で塗り固められた偽りの楽園であった。主人公の早季は自分らしく生きるために仲間と共に葬られた謎の究明に挑む。真理に対し異を唱える勇氣、友情の大切さが学べるお勧め一冊です。



2-2担任 枝並 直樹

『まんがでわかる7つの習慣』

小山鹿梨子著 宝島社

この本は、ステイブ・R・コヴィー著の「7つの習慣」をマンガ化したものである。高校生には自己啓発本は手を出しにくいものであるが、マンガなので読みやすいであろう。この本は自分の人生をより良いものとするために、自分の考え方・習慣を見直してくれ、新たな「気づき」や「見方」を教えてください。

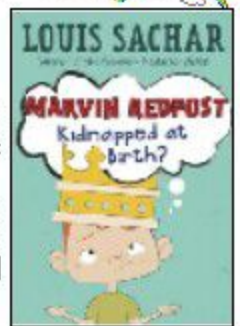


1-1担任 松木 久恒

『Marvin Redpost #1: Kidnapped at Birth?』

Louis Sachar著 RANDOM HOUSE

名著「Holes」の作家Louis Sacharが子供向けに書いた児童書。英語で書いてある本を読んで爆笑してしまったのはこの本が初めてです。洋書で読んでも笑えることをこの本を通じて体験してほしいです。思春期の心情がとても分かりやすく描かれています。

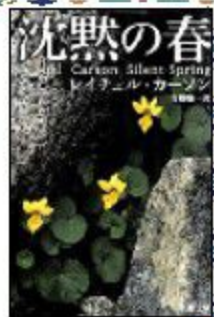


1-2担任 橋浦 義輝

『沈黙の春』

レイチェル・カーソン著 新潮社

環境問題に興味がある人に読んでほしい一冊です。農業が自然環境さらには人体へ多大な影響を及ぼすことに、いち早く警鐘を鳴らしました。自然を自分の思い通りにできるという人間が、いかに傲慢であるかを気付かせてくれます。文中で難しい農業や化合物の名称が多く出てきますが、教えますので聞いてくださいね。



STコース副担任 永井 一哉

『中動態の世界 意志と責任の考古学(シリーズケアをひらく)』

國分巧一郎著 医学書院

学校は、個を社会に適合させようとするほどに、自由を重視することがある。自由であればこそ、人間は自らの責任において選択をし、そこに義務が発生するからだ。しかし、自由を重視する理由が、「責任と義務を感じてもらいたい」だとしたら、私はそれに同意できない。ただ、いまここにある自由を大切にしたい。私たちは、どこまでも自由でありながら、どこまでも不自由だ。「I was born.」の先に広がる風景を見てみたいと思わないか。



STコース副担任 綿引 隆

『本日は、お日柄もよく』

原田 マハ著 徳間書店

「人の心を動かすスピーチをしたい」教員ならだれでもそう思ったことがあるはずだ。そして最近、私には「美しい日本語を話したい」という思いも加わった。原田マハさんの書く文は、日本語の表現も背景描写も美しい。物語は、政権交代に向けた選挙活動を舞台とし展開される。主人公は、多くの出会いを通して自分のやりたい仕事を見つけていく。



“読書の秋”の由来
その語源は中国にあるとのこと。唐の時代の文人韓愈(かんゆ)が、秋の夜は過ごしやすいので灯りをつけて読書するのが一番適した季節であるという意味の詩を残しているそうです。

STコース副担任 大島 憲慎
『だから、あなたも生きぬいて』

大平光代著 講談社

作者は、中学校で自殺を図り、中学退学、16歳で極道の妻になりました。その後、21歳で更生をはかり、司法試験に合格します。自分の甘さ、今を真剣に生きる大切さ、「本気」という言葉の重みが実感できます。どうせ無理と諦める前に最大限の努力をしてみませんか。過去は変えられませんが、未来は変えられます・・・。



STコース副担任 阿久澤 里彩
『幻想・郵便局』

堀川アサコ著 講談社

大学生になり就活をしていてもなりたい職業が見つからない主人公の特技は「探し物」。そんな彼女のもとに求人のおファーが…。！それは、不思議な郵便局からだった。「死んだ人は、消えてしまうのではない」。なりたいものが見つからない人、生きることを意味を探している人は、ぜひ読んでみて下さい。



Sコース主任 泉田 泰斗

『利己的な遺伝子』 リチャード・ドーキンス著
オックスフォード大学出版局

「遺伝子」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。機械的に利己的にふるまう遺伝子から、あなたは何かを感じるでしょうか。ヒトの本質？生き方？価値？筆者は科学書として出版したので内容は小難しく、読むには少し覚悟が必要です。本書を科学書として扱うか、生き方を学ぶものとして扱うかは読者次第です。



3-4担任 高橋 大

『Of Mice and Men』 John Steinbeck著 Pascal Covici

カリフォルニア州で仕事を探し、農場を渡り歩くジョージとレニーの友情や夢の挫折を描いた作品です。やっと夢が叶うかもしれないという時に事件が起こり、物語が大きく動きます。大恐慌時代に生きる貧しい人々の一人として、ジョージはレニーに夢を語る場面が印象的です。背景にある時代を生き抜くとは何かについて、様々なことを考えさせる作品です。私がカリフォルニア州南部の大学に留学している時に、この作品の演劇を見て作品について知りました。邦題は「ハツカネズミと人間」です。英語の小説には古い表現が多く含まれ難しいですが、いつか挑戦してみるのも良いと思います。



2-3担任 柴田 一生

『勇気ってなんだろう』 江川 紹子著 岩波書店

「The only thing necessary for the triumph of evil is for good men to do nothing.

- Edmund Burke)

悪が勝利するために必要なたった一つのことは、善良な人たちが何もしないことである。とあるアイルランドの哲学者は言います。私が教員としてこれに付け加えると、正しい者が声を上げなくなるとそれはやがて「陰口となり、不信用が蔓延る」と思います。間違っていると感じたときに、声を上げるための「何か」がこの本にあります。



2-4担任 小林 美咲姫

『きらきらひかる』 江國香織著 新潮社

登場する3人の男女は、どこかしら“普通”とは違います。そんなちぐはぐな人々が互いを愛する姿に元気づけられます。背が高いとか服のセンスが良いとか、常識で人を好きになったり、嫌になっっていないだろうかと思問してみたい作品です。



1-3担任 武井 克朗

『太公望』 宮城谷昌光著 文芸春秋

紀元前11世紀頃の殷周戦争のお話。周側の有名な軍師太公望が主人公です。困難、課題に対してひたすら合理的な考えのもとで解決していく太公望の様子は現代生活にも通じると思います。最近アニメ化された「封神演義」の主人公の元となった人でもあります。漫画やアニメと合わせて読んでみるのも面白いと思います。



1-4担任 石井 究

『ロウソクの科学』 ファラデー著 岩波書店

ロウソクという身近なものを通して化学的現象のメカニズムを色々なデモンストレーションと共に説き明かし、説き進めていくファラデーの語りで見事に深い感動を感じる。特に、酸素、窒素、炭素の存在を明らかにしていく実験と説明は、とても面白かった。科学に関心がある人だけでなく様々な人に是非読んでほしいと思う。



Sコース副担任 栗原 英明

『クルマはかくして作られる 4』

レクサスLFAの設計と生産』

福野礼一郎著 カーグラフィック

クルマ好き、機械好きの皆さんにお勧めの本です。日本のモノづくりのレベルの高さ、それを支えるエンジニアの情熱を感じることができるでしょう。進路選択の一助となれば幸いです。



Sコース副担任 杉田 章修

『天使は奇跡を希う』 七月隆文著 文芸春秋

ミリオンセラーを記録し、ブームともなった『僕は明日、きのうの君とデートする』の著者である、七月隆文の描く、もう一つの「秘密」の物語。誰かのためにが不器用でも頑張ること、だれかを好きになること、様々な「顔」を読むことのできるそんな小説です。あまり分厚くないので、読書初めの一冊にいかがでしょうか。



Sコース副担任 佐々木 俊輔

『雪沼とその周辺』 堀江敏幸著 新潮社

私のお気に入りの本ということでも迷いました。でも、この本は私のお気に入りの本であることは間違いないので紹介します。まずは読んでみて、読後の感動にひたっていただきたいです。静かで優しく、それでいてどこか哀愁を感じる美しさを味わうことができるかと思えます。それに、短篇なのですぐに読めます。



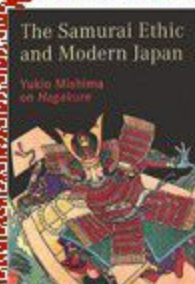
Sコース副担任 オドノフ・ディビッド

『The Samurai Ethic and Modern Japan』

(サムライ倫理と現代日本)』

Yukio Mishima著 TUTTLE

外国人は、この本を読めば、現代日本人の日常生活を理解することができる。日本の歴史が説明され、また日本の文化についての考え方も書かれている。



読書週間
企画号第1弾は
いかがでしたか？
次の号も
お楽しみに！
COMING
SOON